

高田の獅子舞【たかだのししまい】



開催場所

飯塚市高田

高祖神社

開催日

10月12日

10月18日の直近の日曜日

【芸能の概要】

穂波町は、大分の獅子舞を始め多くの獅子舞が行われている地区である。その一つ、「高田の獅子舞」は、1863(文久3)年に獅子頭を高祖神社に奉納したことから始まる。高田の町をあげて続けられてきた獅子舞であったが、昭和32年に後継者不足から中断。以来、永きに亘り獅子舞が町内を巡ることはなかった。しかし平成14年、獅子舞の保存会が発足し、熱心な指導者のもと、かつての活気を取り戻した。1863(文久3)年に、当時の高田区長の入江武七郎氏が、獅子頭1対を高祖神社に奉納したことから、神社の行事に獅子舞が行われるようになったと伝えられる。獅子舞の踊りの基本は、穂波町の大分(だいぶん)八幡宮の舞を基本にしている。

【芸能の特徴】

京築地区の神楽は、明治以前は神職以外では舞うことは許されない社家神楽(神職神楽)であった。明治の神職世襲制度の廃止に伴い、社家神楽が禁止され、明治中期に旧築城郡伝法寺村岩戸見神社の宮司熊谷房重が、氏子に直伝したと伝えられている。それ以来一度も途絶える事なく奉納されている。舞方・囃子方共に、「山霊神社奉楽定」に基づき世襲制により受け継がれてきた。昭和43年に氏子であれば誰でも舞えるように改められ、同時に宮柱・宮司を中心に神楽講も発足した。京築地区の神楽講・保存会等のブロック代表になって、他の県で上演したり、京築地区の祭りに参加するなどの依頼も多い。寒田地区は築城町内の他の地区と異なり、1地区1神楽1小学校となっているため、築城町役場の尽力により寒田小学校全校児童全員に対して神楽を授業の一貫として教えている。子供神楽としての奉納は現在行われていないが、学校内の行事(文化祭・卒業式等)で舞っている。将来は子供神楽の奉納も考えられている。本神楽は男性のみで舞うが、子供神楽は男女共舞う事が可能で現在10名が参加している。

【使用する祭具・道具など】

平成14年に復活したばかりで、獅子舞とお囃子を現在も構築中である。

・アクセス

西鉄バス高田バス停より徒歩5分

・周辺の観光

ぼた山(筑豊富士) 巻き上げ機台座、久保山ダム
ほなみ水仙まつり(3月)、ほなみ桜まつり(4月)
天道花火大会(8月)

・近くの特産品

いちご、メロン、巨峰。

